⑨介護実習の内容及び特徴

（鹿児島国際大学介護実習の手引き参照）

◎本学・介護福祉士養成課程における「介護実習」教育の基本的な考え方

介護福祉士養成課程の学生には、学部４年間の教育で介護福祉士国家試験受験資格と社会福祉士国家試験受験資格とが併せて得られるようにする。これにより、介護技術（ケアワーク）と社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の両方の能力を併せもつ人材の養成を目指す。

したがって、「介護実習」は、科学的根拠に基づいた全人的かつ包括的な生活援助について、学内での学びを基礎として、実習を通して実際の介護を体験する。各学生は、個々の体験や学びを共有し、基礎的な学びを応用する方法を身につけ、今日的に期待される専門職像と自己課題について明確にしていく。

◎介護実習Ⅰ～Ⅲの目標・内容

１）介護実習Ⅰ

１年次後期開講科目：２週間（８０時間)、春休暇中に実施

＜目標＞

高齢者・障害児者関係施設の介護福祉利用者との人間的ふれあいを通じ介護ニーズ（生活状況や思い等）を知るとともに、基礎的な介護技術を体験する。

＜実習内容＞

① 利用者と関わり、コミュニケーションをとり人間関係を築く体験をする。
② 施設の概要、生活の流れや過ごし方を知り、利用者のニーズに関する一般的理解深める。
③ 基本的な日常生活援助の技術を体験し身につける。
④ 日々の実習体験や利用者とのかかわりにおける、適切な記録の方法を身につける。

２）介護実習Ⅱ

２年次通年開講科目：約４週間（１７０時間)、夏休暇中に実施

＜目標＞

利用者の障害の程度に応じた介護のあり方や適切な援助技術を身につけるとともに、職員間の連携の取り方を学ぶ。また、介護過程立案のための基礎学習を体験する。

＜実習内容＞

① 利用者の障害レベルやニーズに応じた介護技術の適切な用い方を身につける。
② 介護過程立案のプロセスを理解し、情報収集等の基礎学習を体験する。
③ 介護業務の実践の中でのチームワークやリーダーシップのあり方を学ぶ。
④ 医療・看護等の他職種との関連・連携について学ぶ。
⑤ 介護に従事し、利用者に接する自分自身をその時ごとに振り返り、援助者としての自己覚知を深める。

３）介護実習Ⅲ

※４年次通年開講科目：①　施設介護実習１６０時間

②　訪問介護実習４０時間（計２００時間）、夏休暇中に実施

＜目標＞

特定の利用者への個別的な介護過程（ケアプランの作成と実施・評価）を展開し、チームの一員として介護を遂行できるまで能力を高める。また、他職種連携の実際を理解する。

（１）施設介護実習

＜実習内容＞

① 特定の利用者の介護ニーズに沿って、それぞれ個別の介護過程を展開するとともに、それを実際に実施し、その後に実習指導職員とともに可能な範囲での評価を行い、再度援助計画を練り直すなどの具体的な援助の実践報告を行う。

② 介護過程の展開とともに、適切な記録の方法を身につける。

③ 夜勤介護を体験し、２４時間を通しての利用者援助の実際についての理解を深める。

④ 集団活動・行事に参加し、レクリエーションの企画実施を体験する。

⑤ 施設における介護、サービス全般についての理解を深める。

（２）訪問介護実習

＜実習内容＞

① 施設実習とは異なる訪問介護の特性を学び、事業所間・職種間の連携を含め在宅の利用者への自立支援の方法を学ぶ。

② 訪問介護事業所を実習施設とし、訪問介護（ホームヘルパー）に同行して行う訪問介護業務の実習を中心にすすめる。

③ 在宅の訪問介護利用者の生活実態や介護ニーズに関する理解を深める。

④ サービス利用者との家族への関わりや援助についての理解を深める。

⑤ 訪問介護員と介護支援専門員や在宅介護支援センター職員間の連携について学ぶ。

⑥ 居宅サービスを調整するための保健・医療・福祉関係者間の会議に参加し、事業者・職種間の連携の実際を学ぶ。